# 津山高専における女子学生のキャリア支援に向けた取り組み

久保川　晴美

Projects to Cultivate Consciousness of Female Students at Tsuyama National College of Technology

Harumi KUBOKAWA

**Abstract**

It is a fact that technical colleges have much fewer female students and have hardly offered specific care and projects to them so far. We organized a working team so that female students at Tsuyama technical college will raise awareness of career planning and concepts in life. The team planned some projects for female students of the college and junior high school. In this paper, the projects we carried out are reported.

*Keywords:* female students, career planning for female students, career awareness for female students

## 1．はじめに

高専では、学生の男女比率に特徴があり、女子学生の数が非常に少ない現状がある。その中で現在まで、女子学生や女性教職員を対象とした取り組み[1)]や就労[2)3)]に着目してきているものもあるが、決して数多いとは言えない。一方で、近年「リケジョ」や「理系女子」などと呼ばれ、女性が理工系分野で勉強し、社会で活躍する姿に注目が集まっている。しかしながら、津山高専の女子学生の声を聴くと、「インターンシップで女子学生の受け入れ先が少ない」や「いったん就職しても、すぐに結婚して仕事は辞めるつもりだ」などと、理系女性が社会に出る第一段階で現実的な問題に直面していたり、社会で働く自分の姿をイメージできていなかったりする状況が多く見られた。

そこで、津山高専では平成23年11月に「津山高専女子会」を発足した。発足の主な目的は、現在津山高専に在籍している女子学生が、それぞれ自分の思い描くキャリアについて少しでも具体的なイメージを持つことができる活動を提案すること、同時に、快適で安全に勉学に励むことができるような環境を整備することである。加えて、この会設立の対象は女子学生だけでなく、津山高専で働く全女性教職員も含まれる。つまり、高専の女性教職員は女子学生にとって「働く女性」としてのキャリアモデルになり得る存在であり、よって女性教職員にとっても就業しやすい職場を作る必要がある。また、高専を目指す女子小・中学生への支援も会発足の目的の1つである。

「津山高専女子会」の名称に含まれる「女子会」は、社会で一般的に使われている「女子会」とは形態や目的が異なるため、また女子学生自身に「津山高専女子会」を受け入れ、そして馴染んでもらうために、この名称に加え、女子学生たちから女子会の愛称を公募の形で募集した。様々な意見が出されたが、平成23年度女子会運営委員長と学生を含めた運営委員で協議した結果、「TKJぷろじぇくと」と決定した。なお、TKJとはTsuyama Kosen Jyoshi(kai)の頭文字を取ったものである。

本稿では、平成23年10月に「津山工業高等専門学校女子会に関する内規」が制定されたのを受けて実践してきた活動を報告する。

## 2．女子学生に向けた実践例

津山高専では、全体の学生数に対し女子学生が1割程度であり、学科によっては女子学生がいない学年もある。そこで、現在津山高専に在籍している女子学生全員に向けた活動を企画、実践してきた。以下、それぞれの活動内容をまとめる。

### 2．1．発足会と護身術講習会

平成23年11月22日に津山高専女子会発足会を開催することが決定し、かねてから学校が企画していた「護身術講習会」と併せて実施することになった。

写真１　発足会の様子

前半に女子会発足会を開き、平成23年度女子会運営委員長が挨拶を行った。本来ならば、校長による挨拶の予定だったが当日は出張で不在だったため、校長からの挨拶文が代読された。その後女子学生に公募していた女子会の愛称、「TKJぷろじぇくと」の披露があり、今後の活動予定について紹介があった。

写真２　護身術講習会の様子

引き続き、女子学生が安心して勉強できるように、そして安全に生活できるように岡山県警警察官と津山署警察官を講師として迎え、護身術講習会が開かれた。平成21年に島根大学の女子学生が殺害される事件があり、比較的距離が近い津山高専では女子学生に危機管理を促す呼びかけを模索していたところだった。また、津山高専周辺には外灯が少なく、他高専に比べて寮生が多いことから、学生自らが自分の身を守る手段の一つとして護身術講習会が計画された。講習会では、実際に誰かに腕をつかまれた時の対応方法を実演していただき、学生自らもペアになって実際に体験した。また、学生にとって非常に身近な持ち物である携帯電話を利用した護身術も紹介された。

### ２．２．学会等報告会

平成24年2月に「学会等報告会」を開催した。これは2部構成となっており、まず「日本機械学会女性エンジニア交流会」に参加した留学生を含む機械工学科の5年生と4年生に学会での様子を報告してもらった。次に、「女子・高専・技大コロキアム」に参加した情報工学科3年の学生に基調講演と分科会の内容を発表してもらった。

写真３　学会等報告会の様子

発表内容はさまざまであったが、共通して言えるのは女性の視点から見た就職活動の難しさや仕事の実際の現場についての話を女子学生が聴くことができた点だと思う。通常は学校で授業を受け、生活している中では、女性であることの立場をあまり意識していない、というより意識をする必要がない状況だと考えられる。そのような中で、就職活動で注意することや女性にとって望ましい職場環境などについて参加学生から報告を受け、今まで考えることがなかったワーク・ライフ・バランスへの関心に繋がったように感じる。特に、自分の身近な先輩や同級生からの話題提供は、学生にとって自らの状況を主観的に捉えることができる良い機会になったことだろう。

### ２．３．高専カンファレンス・全国高専女子フォーラム

平成24年8月に京都リサーチパークで行われた高専カンファレンスに女子学生3名が参加した。高専カンファレンスは特に女子学生だけに特化したカンファレンスではないが、高専全体の学生同士が交流できる貴重な機会となっている。そこでは、各発表者が自分の高専の紹介したり、自分が興味ある専門分野の内容を報告したりする場が提供されている。北海道から沖縄までの高専生が自費で集まり交流を深める機会で、開催場所を変えながら、およそ月1回、全国各地で実施されている。この参加学生3名が中心となり、平成25年3月に津山高専を開催場所として高専カンファレンスが開かれた。学校の教室の収容人数の関係上、募集人数を制限したが、非常に盛り上がったカンファレンスとなった。

写真４　高専カンファレンスの様子

写真５　就職講演会の様子

同じく、高専生の交流を深めることを目的の1つとして、平成25年3月に東京で開かれた全国高専女子フォーラムに女子学生2名が参加した。こちらは、女子学生を対象に、企業がブースを開いて職場を紹介したり、保護者や女子中学生対象に女子高専生が高専女子の実情を披露したりする機会となっている。参加学生2名は、他高専の女子と連絡先を交換するなど、1つの高専内では人数の少ない女子学生のネットワークを広げることとなった。この全国高専女子フォーラムは、平成25年度以降全国各地での開催に向けて動くことになっているものである。

### ２．４．就職講演会

平成24年10月に、就職を控えた本科4年生全員と希望者を対象に「就職講演会」を行った。希望を募って声を掛けたところ、3年生や2年生も聴講していた。講師は、本校の社会科担当の角谷講師に依頼した。日頃、自分が読んでいる雑誌の傾向などから自分の将来の姿を4つのタイプに分類した図を提示し、将来の働き方やプライベートの考え方について学生に問いかけながら講演された。少人数だったこともあり、講師からの問いかけに学生は1つ1つ答え、和気あいあいと進められた。まだあまり就職活動について考えていなかった学生も、「仕事をすること」や「自分の人生における仕事」を改めて考える契機となったようで、講演会後も講義室の外で講師に質問する様子や自分の意見をぶつけていく姿も見られ、講演会の意義を強く感じた。

### ２．５．卒業生による講演会

平成24年12月には津山高専の女性卒業生である3名を講師として迎えて講演会を開催した。この講演会を開くにあたって、学生にとって自分のキャリアモデルを描く際、一番身近な存在である卒業生に講演をしてもらうことが適当であると思い、本校の卒業生に講演依頼をすることになった。可能であれば、各学科1名ずつの卒業生に講演をしてもらいたいと考えていた。しかし講師を見つける上で、高専卒業後に継続して仕事を続けている女性が少ないことが大きな問題であった。また、結婚・出産を経ても仕事に従事している方にも家庭との両立についてのお話を伺いたかったが、やはり結婚・出産を機に仕事を辞めている方がほとんどで講師探しは難航を極めた。

結局、機械工学科から1名、情報工学科から2名、専攻科の機械・制御システム工学専攻修了の方が1名の合計4名の方が講師として来てくださることになった。専攻科修了の方は、本校の電子制御工学科卒業でもある。ところが、機械工学科卒業の講師が急遽仕事が入りキャンセルになってしまったため、最終的には3名での講演となった。

講演会に先立ち、基調講演として機構から岩熊まき理事が来られ、ご自身の経験を基に子育てと仕事の両立や職場での女性同士のネットワークの重要性など男女共同参画社会についてのお話をいただいた。本校の卒業生ではないが、同じ理工系分野を専門とする岩熊理事から、ワーク・ライフ・バランスについてご講演いただき、学生も結婚・出産を経て更に活躍されている姿に共感し、働く女性の姿をイメージしたようであった。

写真６　基調講演の様子

その後、本校の卒業生3名による講演会に進んだ。一人目は機械・制御システム工学専攻修了の講師で、先に自分が高専を選んだ理由やその後、専攻科に進学した理由についての話があった。そして専攻科修了後に就職した現在の職場では、女性にとって仕事は結婚や出産までの腰かけと思われていた逆境を乗り越え、現在の主任を任されるまでに至ったお話を伺った。主任に上り詰める途中には、男性と同じだけ努力しても認めてもらえない悔しさが非常に感じられた。その上、女性が努力を重ねても最終的には管理職には男性が就いていた状況が以前はあったが、それを跳ね除けてつかんだ現在の地位までの経緯が力強く語られていた。

写真７　一人目の卒業生の講演の様子

続いて、二人目は情報工学科卒業の講師で、自分の人生設計を考えた際、結婚や出産も視野に入れて親のサポートが得られやすい地元の就職先を選んだことや育児休暇等を含めた会社の福利厚生も考慮して就職活動を行った経験談が話された。就職活動を行う時点で、自らの将来の設計図ができる限り具体的に描けている方が、就職後に離職することが防げるとのお話もあった。

写真８　二人目の卒業生の講演の様子

最後に、同じく情報工学科卒業の講師を迎えた。現在の職場では、女性特有のコミュニケーション能力の高さや物腰の柔らかさ、そして人当たりの良さを活かし、会社内での事務職ではなく、外部との接点の多い業種で女性が求められ、活躍できる現状を話していただいた。ご自身が営業職で機器の修理などを担当し、顧客との対話を重視しながら働いている現状をお聞きした。一般的に女性エンジニアは数少ないが、女性の方が得意な分野も必ずあるので、そこで自分の力を発揮できている生の声を聞き、就職活動などで悩んでいる学生にとっては大きな励みとなったようである。

写真９　三人目の卒業生の講演の様子

通常であれば、講演後は全体での質疑応答などが行われるが、学生自身が気楽に講師たちに聞きたいことを尋ねられるよう、講演会後はグループ形態で講師を囲んでお茶を飲みながらの座談会を開催した。講師の卒業生3名には、それぞれ異なるテーブルに分かれていただき、在校生は自分が質問したい内容や各自の専門分野に分かれて各卒業生のテーブルについた。

座談会では、学生が実際に直面している就職活動のことや具体的な会社の様子などを真剣な眼差しで尋ねる姿が見られたり、高専でのゼミや教員のことなどで時に笑いあったりと和やかな雰囲気の中、時間が過ぎ

ていった。座談会は1時間弱の限られたものであったが、離れがたくメールアドレスの交換をしていた場面もあった。岩熊理事のご講演にあった女性同士のネットワークも構築できたようである。身近なキャリアモデルである諸先輩方の講演会は、在校生が自分自身の将来設計を考える上で貴重な機会となったことは確かである。また、講師として参加した卒業生たちからも楽しいひと時だったとの感想を聞くことができた。

写真１０　座談会の様子

### ２．６．その他

以上の活動に加えて、女子学生が現在抱えていると思われる問題に対応することが重要であると考え、次のようなことも行った。

異性との付き合いの中で発生する可能性がある「デートＤＶ」に関するパンフレットを女子学生が何気なく手に取って持ち帰れるように保健室や女子トイレに設置した。これは男子学生にも是非知っておいてほしい情報ではあるが、深刻な被害を受ける可能性が高い女子学生に先に情報提供を行うこととした。また、女性エンジニアに関する記事や女性が集まる講演会などの情報を収集し、新聞の切り抜きやパンフレットの一部を回覧板形式で作成し、年に3回、専攻科生を含めた全女子学生に回覧した。環境整備の面では、女性教職員のための更衣室の整備や女子トイレの改装、保護者や来校者専用のトイレを設定するなどの改善がなされた。

## ３．未来の女子学生に向けた実践例

高専女子学生のキャリア支援が主な目的ではあるが、工学系や理科系に興味のある女子小・中学生も未来の女子高専生であり、これから社会で活躍する重要な人材であることは間違いない。そこで、女子小・中学生に向けた取り組みとして行った活動を報告する。

### ３．１．女子中学生対象の公開講座

平成24年10月に女子中学生を対象にした公開講座を企画した。講座の内容によっては、女子小・中学生を対象とすることも考えられたが、限られた時間でパソコン作業を行うことを考慮して、今回は女子中学生のみに募集を制限した。

この企画にあたっては、女性講師による講座を女子学生のアシスタントにより実施したいと考えていた。それも、一般的に高専には女性教員も学生同様に少なく、女子小・中学生に女性教員も高専にはいることを伝え、安心して高専生活に入ってもらうことも目的としていた。講師は、本校電子制御工学科の趙助教に依頼した。アシスタントも女子学生を望んでいたが、日程の都合上、趙助教のゼミ生である男子学生に手伝ってもらうことになった。公開講座の日程は中学校の定期試験や行事などを考慮して、可能な限り中学生が参加しやすい日程を設定した。

写真１１　公開講座の様子

公開講座では、「オリジナル携帯ストラップを作ろう」と題して10名を上限に募集を行ったが、実際の参加者は4名であった。アシスタントとして参加した高専生がマンツーマンで教えることができたので、却って少ない人数が功を奏した形となった。講師や高専生と談笑しながら中学生たちはパソコンでオリジナルの絵や文字を書いたり、無料でダウンロードできる画像を取り込んだりして、思い思いの携帯ストラップや名札のイメージを作り上げていた。レーザー加工機という初めて見る機械に目が釘付けの様子も見受けられたが、完成した作品には皆満足した様子だった。最後にアンケートを実施したが、全員が好意的な感想を持ったようである。以下にアンケートの集計結果を記す。

表１　アンケート結果

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 1. 今日の活動は楽しかったですか？ | | | | |
| とても楽しかった | まあまあ楽しかった | 普通 | あまり楽しくなかった | 全然楽しくなかった |
| 4 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 2. 今日の活動は分かりやすかったですか？ | | | | |
| とてもわかりやすかった | まあまあわかりやすかった | 普通 | すこし難しかった | とても難しかった |
| 3 | 1 | 0 | 0 | 0 |
| 3. 以前にもこのような活動に参加したことがありますか？ | | | | |
| よく参加している | | 参加したことがある | | 今日が初めて |
| 0 | | 1 | | 3 |
| 4. また参加したいと思いますか？ | | | | |
| 積極的に参加したい | 機会があれば参加したい | どちらともいえない | あまり参加したくない | もう参加したくない |
| 1 | 3 | 0 | 0 | 0 |
| 5. 今まで、津山高専に興味がありましたか？ | | | | |
| とても興味があった | まあまあ興味があった | どちらともいえない | あまり興味はなかった | 全然興味はなかった |
| 2 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 6. 今日参加して、津山高専への興味が高まりましたか？ | | | | |
| さらに興味を持った | 少し興味を持った | 変わらない | 少し興味が薄れた | 興味がなくなった |
| 1 | 3 | 0 | 0 | 0 |
| 7. 今日の活動をどこで知りましたか？ | | | | |
| 学校で配られたプリント | 津山高専ホームページ | 知人の紹介 | 講師や主催者 | その他 |
| 4 | 0 | 0 | 0 | 0 |

### ３．２．女子学生によるＨＰ作成

「津山高専女子会－TKJぷろじぇくと－」を立ち上げて活動している様々な実践を多くの方々、特にこれから高専を選択肢として考えている女子小・中学生に知ってもらいたいということで、TKJプロジェクトのホームページを作成することになった。ホームページの作成に当たって、高度な技術を取り入れることを優先に考えれば外部へ依頼することもできたのだが、本校の学生自らが立ち上げることを重視し、有志の形で学生に声をかけたところ積極的に作成に携わってくれる学生が決まった。また、津山高専独自のキャラクターに加え、女子会のホームページに登場するキャラクターのイラストを担当する女子学生も決まり、学生たちの手によって作られたホームページが完成した。

ホームページの掲載項目については学生も含む女子会運営委員会で協議され決定し、女子小・中学生が欲しい情報を厳選している。中には、女子学生が活躍する部活動の様子をまとめたり、女子学生や女性技術職員の方へのインタビューと題して高専の真の姿を発信する貴重な情報提供の場となっている。これらの更新作業は、随時、学生の手によって行われているところである。

## ４．今後に向けて

「津山高専女子会－TKJぷろじぇくと－」を発足し、まだ活動期間は非常に短い。ただ、初年度ということで手さぐりだった行事も多かったが、放課後や土曜日に設定した行事に女子学生が時間を割いて参加してくれたことは、やはりこれらの活動が女子学生に望まれていることを証明した。発足当時は女子学生からの反発が強かったことも事実だが、女子学生自身の声を反映させ、学生の将来に繋がると考えるイベントを企画してきたことによる1つの成果ではないだろうか。

今後、これらの活動を基盤にして新たに女子学生が必要とする情報や意識改革できる計画を提供できるよう積み重ねていく必要があると考えている。

## 主要参考文献

1) 根岸嘉和　福島高専女子学生・女子教職員総合支援室（女子総合支援室）の支援活動（＜特集＞高専における女性技術者の育成）　*日本高専学会誌*　15(4 )　pp. 17-20（2010）
2) 内田由理子、かどやひでのり　高専女子卒業生の就労動向とキャリア教育　*津山工業高等専門学校紀要*　48、pp. 119-124（2006）
3) 内田由理子　高専を卒業した女子学生のキャリア形成　*工学教育*　59（3）　pp. 67-72（2011）

（2013年8月2日　受理）